

第3章 コース実施による検証

第3章 コース実施による検証

第1節 コース実施結果

「満点追求」のコーステーマは、作業結果の上での満点追求、同時にそれを追求する姿勢、態度としての満点追求の2つである。そして、この二重の意味での満点追求は、基本的なことについても「完璧」を要求する指導となって現れる。高度熟練の「満点」は基本的な作業、始業時の準備点検、精度検査、6面体の作成等の「満点」の上に成り立っているのだということが、コースを通して受講者に体得され、その上で様々な条件をクリアし完璧を追求するのがこの「満点追求」コースのテーマである。

「満点追及」コースは一つ一つの作業の意義、重要性を改めて考え直させるものである。それは現場的・実践的な作業において求められる「精度・速度・美観」といった製品要件を追及できるためにこそ、その時点（一つ一つの作業）での「満点追求」が大切であるという点である。つまり、訓練の最初から「精度・速度・美観」という目標があり、「満点追求」があるということである。

また、今回の試行実施によって、「満点追求」のステップがあり複数のコースが必要であることが明らかになったと考えられる。ある時点ある時点で「満点追求」し、その評価を行うことにより、その時点では分からなかったものが見えてくる。そして前年度計画したものは、今年度実施したコースの受講者を対象に次のステップとして実施し、またその時点での技能レベルの評価を行えるものとして捉えることが出来る。

コースの最後の総括での受講者の感想は、「いままで行ってきたことの中での悪い点がどこであったかがよく分かった。作業方法を追求し実践するという厳しいコースで勉強になった。会社内で再度、後輩を送り出したい。」「会社に先輩が少なく、今回のような内容を教えてもらう事はなかったので、大変勉強になった。」「一つ一つのことを確実にできること、全体を見通し作業をすることの大切さを身をもって知ることが出来た。」「このコースを最後までやれるか不安であったが、やり通せたので自信がついた。」というものであった。

受講者側から捉えたコースとしての成果は、

- ・いままでの技術・技能の見直しが行える点
- ・作業方法を追求し試行錯誤し実践・習得できるという点
- ・会社では、習得できない技能要素を習得できる点
- ・困難な課題実習をやり遂げ自信を付ける点

としてまとめることができる。

第2節 「満点追求」コースの具体的指導技法

「満点追求」コースの指導方法は、基本的に次の流れになる。

- ①課題の提示
- ②課題の製作
- ③課題の測定・評価
- ④指導（問題点と対策、新たな目標値）
- ⑤課題の再製作（③～④更に⑤へ）

①②の間には、工程検討（工程表作成）、指導員による技能提示を効果的に入れることになる。今回の場合、第1の課題は、コース実施の2週間前に示しコース初日に工程表を確認することとしている。技能提示は、熟練技能者の方にお願ひしその加工手法を実演している。

②の課題製作時は、指導員が受講者の作業チェックを行う。チェック項目は安全作業、整理整頓、作業の流れ、切削条件、測定等が挙げられる。（資料編チェックリスト参照）

④の指導では、問題点と対策、⑤の課題の再製作に向け、受講者に合わせた適切な目標値を設定することになる。そしてこの流れの中に満点を追求するという姿勢を盛り込むことになる。

⑤については、次の課題（ステップ）に進むのが一般的であるが、ここでは同じ形状の課題を新たな目標にて製作することになる。精度を上げたり、製作時間を短くすることである。このことからすれば、次の課題に進んでいるともいえる。

具体的な指導点（追求項目）としては、第1段階としては、不具合の所の原因を検討すること。寸法が公差からオーバーした場合は、何故か。寸法の読み間違いか。目盛りの合わせ方が悪かったのか。等をハッキリさせる。例えば、測定自体が悪い（測定圧、測定姿勢）ので有れば作業法の改善または測定感覚を付けてもらう。面が悪い原因は何か、直角度・平行度が悪い原因は何か、と対策をたて実践（再作成）する。

次の段階では、作業スピードを速くするにはどうするか。指導員が実習中の作業の流れをチェックしたことを基に指導を行う。どの作業に時間がかかったのかを検討する。

そして、更に精度を上げるにはどうするか。±0.02mmを、±0.01mmにするには、直角度・平行度を上げるには、と目標を順次上げていく。一つ一つの作業を見直し「満点の中の満点」を目指していく。

また、図面を見た段階から、全体を見渡せるようにするため、工程表を憶えるようにするなり、書かないでもある程度までは、出来るようにする等の目標を持ってもらう。